



(公社)佐倉市シルバー人材センター
ホームページ

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター



印旛沼おもしろ ゼミナール No.3

私は印旛沼観光船の助手兼ガイドとして乗船しています。今年の夏休みは、印旛沼に隣接する市町村が、夏休み印旛沼観察会を主催。多くの親子さんが観光船に乗船されました。その中で八千代市の小学4年生に「印旛沼の勉強しているの？」ときいてみました。すると学校で「染谷源右衛門の授業を受けた」と回答されました。一瞬驚きましたが印旛沼に少しでも関心を持ってもらい嬉しくなりました。そこで今回は、※利根川東遷完成後の印旛沼開発にスポットをあててお話しします。

取材担当／広報委員 鴨崎 金次

染谷源右衛門(そめやげんえもん)と印旛沼の開発

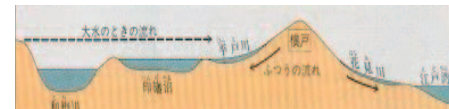
今のような印旛沼になるまでに、どんな人びとの努力や苦心があったのでしょうか。

※利根川東遷(とねがわとうせん)

利根川は、今から約400年前までは、江戸湾(今の東京湾)へ流れていました。1603年、江戸に幕府を開いた徳川家康は、江戸を大水の害から守るため、利根川を銚子に流れるような川のつけかえ工事をしました。これを利根川東遷といえます。この工事によって印旛沼は、利根川とつながられました。

利根川東遷後たび重なる水害

その結果、大雨がふるたびに印旛沼の水があふれ、まわりの村は水害で苦しめられるようになりました。利根川から印旛沼にたくさんの水が流れこみ、平戸川(ひらとがわ、今の新川)や神崎川(かんなぎがわ)へあふれたからです。



大水のおこるわけ

たち上がる源右衛門

今から280年ほど前の1724年、たび重なる大水を防せようとして、たち上がった人がいました。平戸村(今の八千代市)の名主をしていた染谷源右衛門でした。

大雨のたびに印旛沼の水害で苦しめられていた源右衛門は、くる日もくる日も水害をふせぐ方法はないものか、と考えていました。そして、源右衛門は、平戸村と花見川をつないで、沼の水を江戸湾に流すことができれば、印旛沼の大水をふせぐことができると考えたのです。これは、印旛沼から江戸湾までのおよそ14キロメートルの川底や台地をほりさげて、「ほりわり」(水路)をつくるという大工事でした。

源右衛門は、幕府に工事を認めてくれるようお願いしました。幕府では、役人を送り、土地の様子を調べたり、工事にかかる費用を計算したりしました。その結果、幕府は、源右衛門の堀割り工事の計画を認め六千両をあたえて工事をすすめるよう命じました。



工事のようす(続保定記より)

しかし、六千両のお金でも足りないもので、源右衛門は、自分でも四千両のお金を用意しました。堀割り工事は、一万両というお金をかけて行われました。源右衛門と村人たちは、もっこやくわなどの道具を使って、人の力でほりわりをつくっていきました。しかし、工事はうまくすすみませんでした。土をほったり、運んだりする技術が今のように発達していなかったことと、印旛沼のまわりは土がやわらかく、いくらほってもすぐに埋まってしまったり、大



およそ1000年前の利根川 現在の利根川

水のために、出来上がった堀割りがこわされてしまったからです。源右衛門の努力のいかにもなく、2年間続いた、ほりわり工事は、中止になってしまいましたが、その後も工事は続きました。



工事に使った道具

その後の印旛沼の開発

昭和22年には、国が平戸川と花見川をつなぐ工事を始めました。機械による工事でしたが、完成まで20年以上の長い年月がかかりました。昭和42年、大和田に排水機場(はいすいきじょう)がつけられ、平戸川と花見川がやっとつながりました。こうして、印旛沼は東京湾とつながり、水害の心配もなくなりました。源右衛門の努力は250年後によく実現したのです。

「わたしたちの八千代市 平成7年度版」により作成

ボランティア清掃 新型コロナのため2020年から中断されていたボランティア清掃が再開しはじめました。志津北地区のボランティア清掃取材しました。

佐倉市内のボランティア清掃は全部で13カ所、そのうち志津北地区では3カ所で行なわれています。今回は毎月第3日曜日、スーパー「てらお」の駐車場に集合しているグループを取材しました。宮ノ台地区の1班と2班、井野地区の3班で構成されています。新型コロナが一時収まった昨年7月に1度だけ再開されたのですが、再度の感染拡大で再び中止となり、それから1年以上経って改めての再開です。



古瀬班長の説明

7時には名簿に名前を記載頂いた本日の参加者10名が全員揃い、古瀬さんの説明から始まりました。各自が周囲に散らばってゴミを回収し、7時半までに集合場所に戻るといいます。

古瀬さんに聞きました。「ここはいつも12~13名の参加です。定期便の配付だけでは班内の会員の情報が入ってきません。こうやって会員同士が顔を合わせお話しをすることは大変貴重な機会です」

周りがほとんど住宅地で道もきれいに掃除されているためか、ほとんどの皆さんはビニール袋は軽いまま集合場所に戻って来られました。でも回った場所によっては異なる様で、2つの袋を重そうに持って帰ってきた方もおられました。戻って来られた人に、古瀬さんからご苦労様と冷たいお茶が配られました。

久々の清掃ではじめて顔を合わせた方も多いということで、皆さんで簡単な自己紹介を行ない、最後に下田地区長から、シルバーフェスタ開催とその設営準備の手伝い募集についての案内が伝えられ、解散となりました。



冷たいお茶

取り纏め 本日の収穫



下田地区長からのお話

取り纏められたゴミ袋は公園の隅の決まった場所に置かれ、翌日市役所の車が回収に来るとのことでした。最後に古瀬さんと下田さんと隣接する公園内の所定の場所に用具を保管し、ボランティア清掃の全ての作業が終了しました。



所定の場所に

取材担当／広報委員 小野寺 弘孝



用具



準備風景

2023年度上期 班長会議レポート 根郷・弥富地区

開催日時 2023年9月22日(金) 午前10時00分～午前11時15分
場所 ワークプラザ2階会議室
出席者 地区長、副地区長、班長5名、SSJC三役2名、合計9名
班の構成 全12班(内、班長不在の班4)



班長会議の開会宣言に続いて佐々木副会長と地区長の挨拶、事務局長による今年度前半期のSSJC活動状況と業績の報告と進みました。その後続く検討事項の審議で特に活発な討議となったのが『シルバーフェスタ2023のボランティア募集』と『定期便手渡しの実態調査』の議題でした。このときの経過を紹介します。

シルバーフェスタ2023のボランティア募集では

計画の概要説明のあと、当地区に割り当てられた15名のボランティアの確保要領に関して活発な意見交換がありました。そして、当班所属の会員にボランティア参加を個別にお願いする担当者が決まり、9月末までに15名を確定させるよう各担当者は行動することになりました。



定期便手渡しの実態調査では

定期便を郵送に抛らずに手渡しで会員に配付することの意義は『会員とのコミュニケーション』と『安否確認』にあるとして、当初からこの要領を継続しています。その一方で、班長が定期便を会員宅に持参しても本人と会う機会はほとんど無いという最近の実情も報告されています。そこで、各班長に9月の定期便手渡しの実態を聞き取りで確認したところ、手渡しできたのは128名に対して18名で、殆どは手渡しできない実態が浮き彫りになりました。その理由の大半は『インターホンを押しても反応がない(仕事或いは所用で不在と推定)』というものでした。その他には、①反応があっても『ポストに投函して』或いは『玄関先に置いておいて』

と返答されて、本人とは会えない②本人は不在のために家族に渡しておいた というのもありました。そして、会えなかった場合の措置として共通していたことは、ポストに投函して或いは玄関先等に置いて次の配付先に向かい、会員宅を再び訪問することまではやっていないという実態でした。

当地区の班長会議取材したなかで、定期便の手渡し問題は奥が深いと感じました。本事案の開始当初に考えていた『定期便手渡しの意義』は、今の時代にあっては、届ける側と受け取る側の間で考え方に齟齬が生じていると考えられます。5地区の全てで実施される実態調査の結果を分析することによって新しい配付方法を考案する必要があったと思いました。

取材担当/徳野 廣一グループリーダー



就業開拓委員会の委員の皆さん
後列 左より 岡田さん、上原さん、小野さん
前列 左より 山田さん(委員長)
山崎さん(副委員長)

役割の柱

SSJC会員の将来の就業先に最初の窓口を拓く活動です。SSJCの名前を相手方に知ってもらい、SSJCの会員が従事できる職務を理解してもらって、新たな契約に結び付けることです。

令和5年度は『就業先の新規開拓を10件以上』が数値目標です。この達成に向けて作戦を立て、手を尽くしていきます。

開拓の目標

折込チラシ、地方版新聞や地域情報誌の求人情報、会員から提供される情報等を参考にして絞り込み、集中的に営業します。個別の電話作戦は効果があります。商工会議所の新規入会企業や公共団体にも足を運びます。女性会員に希望の多い仕事を求めて保育施設や介護施設も訪問します。店頭販売職も有望です。既存の就業先には他の業務への進出意欲をアピールしていきます。過去のデータを詳しく分析すると最近、介護施設で取り組む業務が増える傾向にあります。



上半期の実績

新規開拓で5件の成約、新規に就業した会員は11名でした。委員・事務局・会員の情報提供がひとつの塊になった活動により、目標に到達しました。その他に、契約交渉継続中の案件が介護施設並びに公共施設に関連する業務で5件あります。

好事例を紹介

(その1) 宮ノ台にある介護付き有料老人ホーム
配膳・下膳、館内清掃に5名の会員が就業しています。コミュニケーション力を活かした明るい仕事ぶりは入居者とお客様にとても好評です。

(その2) 大手総合スーパーの管理センター

店舗で使用する什器・展示台のメンテナンス業務に20名の会員がシフト制で就業しています。チームワークの良さはお客様に高く評価されています。



このような活動を やっています 就業開拓委員会

就業開拓委員会はその役割の性質上、会員と直接触れ合う機会が少ない舞台で活動しています。そこで、実際の姿を委員長・副委員長に分かり易くまとめてもらいました。



下半期のキーワード

『女性』と『市役所』です。中期計画の目標達成に向けて上期の活動を継続します。その重点は『女性部会との連携による女性会員に適した就業先の開拓』と『令和6年度の佐倉市役所との契約獲得に向けた各課への営業訪問』です。

就業開拓委員会の活動にご期待ください。



就業開拓 委員長 山田常夫
副委員長 山崎博己